

県都福井を再設計

～県都デザイン戦略を策定～

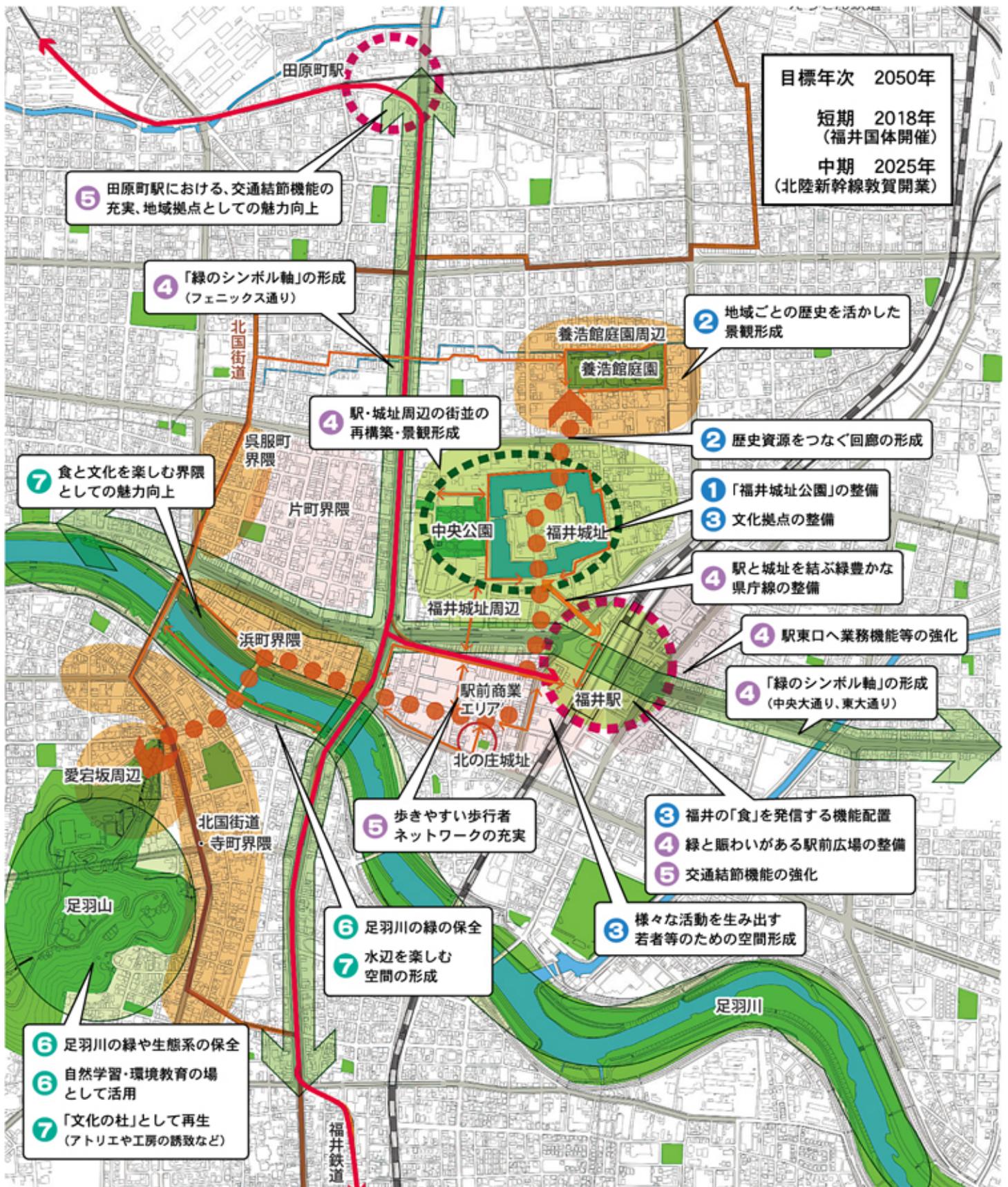
県都福井は、戦災、震災から60年余りが過ぎ、都市全体がリニューアルする時期を迎えます。

また、2018年の福井しあわせ元気国体には、全国から多くの人々が福井を訪れるとともに、北陸新幹線の県内延伸や高規格道路の整備など、福井県を取り巻く高速交通体系が大きく進展します。

一方、人口減少や超高齢化などの課題を踏まえ、都市の拡大を見直すなど、新たな見地に立ったまちづくりを進める必要があります。

そこで、県と福井市は、2050年を見据えた県都のまちづくりの指針となる「県都デザイン戦略」を今月策定しました。

戦略には、3つの目指す姿に対応した7つの方向性と、実現に向けた具体的な方策を盛り込みました。長期的な展望を持って、事業に着手します。



歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する県都

① 福井城址を中心とした、歴史を象徴し、人が集まる空間の形成

城址、中央公園などを一体化した「福井城址公園」の整備

県民会館跡地周辺で、石垣の遺構を活かした、歴史を感じる、緑の多い開放的な公園の整備に着手します。あわせて、これまで整備してきた天守台跡や御廊下橋との導線上にある山里口御門を復元します。

長期的には、県庁舎、市庁舎を移転・再配置し、城址、中央公園およびその周辺に範囲を広げた「福井城址公園」を整備します。

復元は、県民に寄付を募るなど、気運を醸成しながら進めていきます。



県民会館跡地周辺を先行整備(イメージ)

② 地域の歴史を実感できるまち並みの形成

幕末の旧跡等を活かした新たな歴史の拠点と回廊の形成

幕末から明治維新に活躍した福井藩士などにまつわる旧跡や、城郭の御門跡地などを活かし、新たな歴史の拠点をつくります。

また、これらの拠点と愛宕坂、北の庄城址、福井城址、養浩館庭園をつなぐ回廊を形成します。

近代建造物の保全・活用、歴史を活かした景観形成

都市の近代化を物語る歴史的な建造物を文化財に指定するなど、地域の財産として保全・活用します。

また、福井城址や養浩館庭園、愛宕坂などの周りや、当時の商いの形などが残っている地区を歴史的界隈として位置付け、景観を整えます。

城下町の名残を旧町名、通りの名称として復活

福井城址周辺や旧北国街道沿いなどで、昔の城下町の名称を復活します。また、城址周辺の通りを、百間堀通り、堀端通りなど、堀の記憶を映す名称に変えていきます。



歴史をつなぐ回廊(イメージ)

③ 文化を育て、発信する県都の実現

福井城址公園周辺における芸術・文化拠点の形成

福井の芸術・文化を育て、県内のものづくり文化を発信する新たな拠点を整備するなど、子どもから大人までが芸術・文化に触れ合い、創作的な活動を行う機会を増やします。

福井の「食」を集め、食文化を発信する拠点の形成

旬の食材が買え、福井を代表する料理が味わえる拠点を整備するなど、福井が誇るおいしい食を発信する機能を充実します。

新たな活動を生み出す若者等のための空間の形成

若者などが、文化活動やスポーツ、まちづくり、新たなビジネスなどを行いやすい、まちなか空間をつくります。

美しく持続可能な都市

④ 緑豊かな風格ある都市への再編

県都の顔となる玄関口の再整備

人が集まり、緑と賑わいのある駅前広場を整備します。また、駅と福井城址、駅の東西を結ぶ歩行者の動線を整備します。

都市の骨格となる「緑のシンボル軸」の形成

都市の骨格となる東西・南北の大通りを、緑豊かなシンボル軸に転換します。

また、車の走行を優先して設計されている道路を、歩行者中心の空間へ変えていきます。



県都の玄関口となる「福井駅西口広場」を整備(イメージ)

駅・城址周辺の街区の再構築、景観形成

公共施設などが更新する時期に合わせ、駅や福井城址周辺を経済、行政機能の中心地として再構築します。また、緑の空間や、堀をイメージした水辺など、城址と一体となった景観が広がるまち並みをつくります。

まちなかの魅力を高める新たな土地利用

まちなかに増えつつある、空地や駐車場などの低未利用地を緑の広場として利用したり、将来の活用策を探るために暫定的に活用し、公共性の高い空間に変えていきます。

⑤ 人や環境に優しい交通とコンパクトな都市構造の実現

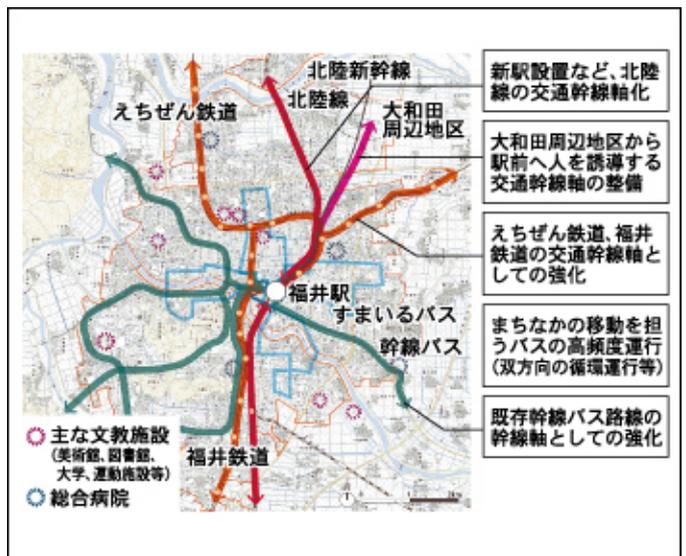
駅を中心とする交通機能の強化、都市機能集積の活用

福井駅と田原町駅を、鉄道やバスなどに乗り換えしやすい駅にします。

また、大学やフェニックスプラザ、図書館、体育館、駅などが集まっている田原町駅周辺を、県民が集い、交流できる拠点としていきます。

都市構造を形づくる東西・南北公共交通の強化、定住誘導

福井駅を中心とした基幹的な公共交通体系と、それを補う細やかで利用しやすい公共交通網を整備し、子育て世代から高齢者までの多様な世代が沿線に居住するよう誘導します。



交通体系を再構築(イメージ)

歩きやすく雨・雪に強い歩行者空間の形成

子どもや高齢者、観光客、外国人などが歩きやすく、雨・雪に強い歩行環境を整備します。

また、駅を中心に、豊かな緑陰や歴史の回廊、商業エリアの賑わいと一体となった、歩いて楽しめるまちをつくります。

まちなかの移動に便利な交通ネットワークの形成

主婦や高齢者、観光客などが短い距離を移動しやすいよう、自転車や超小型電気自動車などを利用した交通システムを整備し、健康に良く、環境に優しいまちにしていきます。

自然を守り、緑や水と共生するまち

⑥ シンボルとしての足羽山・足羽川と緑がつながる空間の形成

自然を楽しみ、学ぶ場としての活用と緑・生態系の保全

足羽山・足羽川を、まちなかに隣接する里山や水辺として位置付け、子どもたちをはじめ、県民の学びの場として活用します。

また、貴重な緑や生態系、四季を感じることができる自然の風景を、県民全体で守っていきます。



足羽山の自然を学習(イメージ)

足羽山・足羽川の眺望を守り、緑をつなぐ景観づくり

まちの中から、足羽山や、足羽川の桜並木を見やすくするとともに、まちなかに緑が広がる都市空間をつくります。

⑦ 文化と活動の空間としての足羽山・足羽川の再生

「文化の杜」としての足羽山の再生

足羽神社の参道として栄え、文化人が集まった愛宕坂周辺にアトリエや工房を誘致するなど、創作的な活動ができる「里山アート・ミュージアム」を形成します。

水辺と桜堤を活かした足羽川における活動空間の形成

足羽川の水辺に、スポーツやレジャーなどを楽しむことができる環境をつくります。



足羽川をスポーツやレジャーが楽しめる空間に整備(イメージ)

食と文化を楽しむ空間としての足羽川周辺の魅力向上

足羽川の水辺や、その周辺の浜町などを活かし、文化的な雰囲気の高い界隈をつくります。

県民とともに県都をデザイン

戦略の実現に向け、ワークショップや社会実験、福井城址などを復元するための寄付の募集などを進めています。

県民の皆さんは、積極的にご参加ください。

テレビ番組 3/31(日)7:30~8:00

FBC「おはようふくい730」県都デザインを考える

Google 県都デザイン戦略

検索

 **BACK**

